



愛郷無限

土屋館
どやだて
通信

発行者：大曲・花火通り商店街
文責：辻

お問い合わせ：080-1265-7035
tuck-t@akita-tsujiya.jp

2014年01月30日号 NO.447

写真提供：大山市

Subject：県内商店街ネットワーク

1月17日（金）、日頃お世話になっている全国商店街支援センターが主催となり、秋田県内の小さくても頑張っている・やる気のある商店街のリーダー達を一堂に会する「商店街ネットワーク会議」が、大曲ののびのびらんどで初めて開催されました。

全国商店街支援センターは全国各地の商店街の活性化のために国が用意したプランを実際に地方へ落とし込み、指導・サポートする実務を国から請け負っている会社であり、ここ数年、大曲は情報・指導・支援の様々な面でお世話になっていますし、逆に頑張る商店街として注目していただいております。

全国に約13,000団体ある商店街組織は、小売業の全国総売上げ135兆円の40%、事業所総雇用数の40%を占めており、則ち商店街の低迷が問題となっている現在にあっても、日本の小売業の4割を未だに担っている存在だそうです。

大曲の花火通り商店街、湯沢市の柳町商店街、にかほ市のにかほ出前商店街振興会、大館市の大町商店街、鹿角市の花輪新町商店街、岩手県西和賀の湯本商店会、それにいつも花火通り商店街をご指導いただいている並山さんと、秋田県庁から産業労働部の土門さん、そして全国商店街支援センターの面々が集まりました。

【国の予算が非常に厳しくなっている中で、過去のような出しっぱなしで結果の検証がしっかり成されない、総花的な補助事業はもあり得ない。たとえ小さくても本当に危機感を持って、しかもやる気があり、しっかりと地に足を付けて地域事情を踏まえて取り組んでいる団体・組織にこそ国は真剣なサポートをするように状況は変わっています】と強調されていました。極端に言えば、成果が出なければ支援を打ち切り、補助金を返金させられるくらいの覚悟で事業に臨む厳しさが重要だと。今回は、あくまでも支援センターの内部会議ということで、商店街や一般の皆さまにご案内して一緒に参加してもらうことが叶いませんでした。しかし、他地域の事情と計画を生で聞き、そして意見と情報を交換できるこのようなネットワークは非常に有効、且つ意義のあることだと実感できました。今後も継続してネットワーク作りをしていく筈を合意し、

・まずは相互に商店街を訪問し、取り組みと状況を各々の地域の事情を現地で知る。

・Facebookを利用した相互PR手法と、コミュニケーションの輪を作る。

全国に先駆けて秋田県を対象に選んでいただき、しかもその出発点に大曲を選んでいただけたことから、当商店街に対する評価と期待を感じ、気が引き締まる思いです。

今回いただいたご縁を大切に、互いに切磋琢磨し、情報共有できる仲間を県内で築いていきたいと思えます。【関係値】をアップし、そして【関係地】を沢山作る事も、今後の「交流人口増加」のための大切な一歩なのです。外部と関係が持てないような内弁慶の地域では、外から魅力的に見えるはずはありませんよね。